

2021年度

事業報告書

事業報告の附属明細書

公益財団法人かわさき市民活動センター

目 次

事業報告書

1 当法人の現況に関する事項	1
(1) 事業の経過及びその成果	1
(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況	1
(3) 主要な事業内容	2
(4) 重要な契約に関する事項	2
(5) 職員に関する事項	2
(6) 役員会等に関する事項	2~4
2 役員等に関する事項	4
(1) 理事	4
(2) 監事	4
(3) 評議員	4~5
(4) 退任した役員	5
(5) 役員等の報酬	5

事業報告の附属明細書

I 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況	6
II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】	6
1 市民活動推進事業	6~17
2 青少年健全育成事業	18~41
3 法人の運営	42

事業報告書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

はじめに

当財団の使命は、「川崎市における市民活動支援の中間支援組織として市民相互の連携を図りながら市民活動の活性化を促進するとともに、青少年の心身の健全な育成を図るため、青少年事業の推進及び地域組織への支援を行い、もって住みよい地域社会の確立に寄与する」ことが定款第3条に定められています。

2021年度においても「市民活動推進事業」及び「青少年健全育成事業」を2本の柱として、地域の関係団体や関係機関と連携した事業展開を図りました。

「市民活動推進事業」では、市民活動が活発になり市民創発を促すことを意識し、情報発信、講座、交流、専門相談、助成金等の各事業の連携と相乗効果を目指しました。加えて、コロナ禍の下、全市・全領域の市民活動支援組織として、市民活動団体等が直面した課題への対応、新たな支援の検討と実践に取り組みました。また、施設運営においても利用者にとって安心・安全な施設となるようさまざまな対策を講じました。

「青少年健全育成事業」では、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所となるよう、多彩な事業を実施しました。2019年度から5年間の指定管理者として、こども文化センター53館及びわくわくプラザ102校について仕様に即した安定した運営を行うとともに、こども文化センターの団体利用の拡充に向けた施設利用の推進などを含め事業を進めました。加えて、新型コロナウイルス感染症対策として、衛生管理を強化するとともに、利用時間、定員、活動内容や行事内容等について、段階的に運営を行いながら感染予防に努めました。

また、法人として、確実な組織運営と健全な財政運営に基づいた経営を進めながら、公益目的事業の推進を図ってきました。なお、2021年度におきましても、昨年度と同様、コロナ禍での事業運営を行うという環境の中で、会議及びイベントの中止、事業の縮小を行う一方で、オンラインにより行事等を実施するなど施設運営や事業方法に様々な対応を行ってきました。今後におきましても、新型コロナウイルス感染症の感染状況の先行きが不透明な中、引き続き、職員の安全安心を確保しつつ、事業運営を円滑に進めていくことが、重要な課題となっています。

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

(単位:千円)

事業別【経常収益】	予算現額	執行済額	執行率
市民活動推進事業	97,494	95,378	97.83%
青少年健全育成事業	3,190,099	3,246,916	101.78%

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

(単位:千円)

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 (当事業年度)
経常収益	3,078,087	3,230,523	3,218,700	3,394,058
当期経常増減額	△52,817	39,348	4,214	17,399
正味財産期末残高	230,248	269,536	273,618	291,596

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
市民活動推進事業	<ul style="list-style-type: none">市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業市民活動に関する調査・研究事業市民活動に関する人材育成及び相談事業市民活動の促進・支援事業関係機関・関係団体等との連携その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）
青少年健全育成事業	<ul style="list-style-type: none">青少年の健全育成に関する事業青少年施設の管理運営の受託関係機関・関係団体等との連携その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）

(4) 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
2021年4月1日	川崎市	合計 2,868,362,617 円	2021.4.1 から 2022.3.31 まで	川崎市こども文化センター指定管理業務の受託に伴う年度協定書

(5) 職員に関する事項

(2022年3月31日現在)

職名等	氏名	就任年月日	担当事務	備考
事務局 長	亀田 俊夫	2020.4.1	事務局の総括	重要な使用人
総務課 長	服部 拓治	2020.4.1	課の総括	
市民活動推進課 長	犬塚 裕雅	2017.4.1	〃	(参事)
青少年事業課 長	三ッ木 純子	2020.4.1	〃	
青少年事業課 主幹	島 忍	2010.10.1	エリアマネージャーの総括	
その他の職員（派遣職員を除く。）				1,975 人

(6) 役員会等に関する事項

ア 理事会

会議名	開催年月日	議 題	会議の結果
第1回	2021年 6月1日	提案事項 議案第1号 2020年度事業報告及び決算 議案第2号 2021年度5月補正予算 議案第3号 2021年度第2回評議員会（定時評議員会）の開催	可決 可決 可決

		報告事項 報告第1号 規則の改正等 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第2号 年度協定書の締結	了承 了承
第2回	2021年 11月25日	議案(決議事項) 議案第1号 規則の改正 議案第2号 2021年度11月補正予算 議案第3号 2021年度第3回評議員会の開催 議案第4号 理事の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦 報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第1号 2021年度上半期の事業等	可決 可決 可決 可決 了承
第3回	2022年 3月11日	議案(決議事項) 議案第1号 規則の改正及び廃止 議案第2号 2022年度事業計画書 議案第3号 2022年度収支予算書等 議案第4号 2021年度3月補正予算 議案第5号 行政庁への収支相償に向けた剰余金解消計画書 議案第6号 2022年度第1回評議員会の開催 報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第1号 2021年度第1回資金運用委員会の結果報告 報告第2号 職員採用選考及び昇任試験の結果(青少年事業課)	可決 可決 可決 可決 可決 可決 了承 了承

イ 評議員会

会議名	開催年月日	議 題	会議の結果
第1回	2021年 4月15日	議案(決議事項) 議案第1号 規則の改正(役員及び評議員の報酬並びに費用の額の決定及びその規則の改廃) 報告事項 報告第1号 規則の廃止及び制定 報告第2号 2021年度事業計画書 報告第3号 2021年度収支予算書等 報告第4号 職員採用選考及び昇任試験の結果通知事項	可決 了承 了承 了承 了承
第2回	2021年 6月25日	議案(決議事項) 議案第1号 2020年度事業報告及び決算について 報告事項 報告第1号 2021年度5月補正予算について 報告第2号 年度協定書の締結について	可決 了承 了承
第3回	2021年 12月9日	議案(決議事項) 議案第1号 理事の補欠選任について	可決

	報告事項 報告第1号 規則の改正 報告第2号 2021年度11月補正予算 報告第3号 2021年度上半期の事業等	了承 了承 了承
--	---	----------------

2 役員等に関する事項

(2022年3月31日現在)

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
代表理事 (理事長)	小倉 敬子	2020.6.25 から 2022.6 定時評議員 会の終結の時まで	常勤	有	文化パートナーズかわさき 代表
副理事長	鈴木 眞智子	〃	非常勤	〃	特定非営利活動法人 水・防災機構 理事長
副理事長	福田 武雄	〃	〃	〃	川崎市青少年育成連盟 副理事長
代表理事 (常務理事)	安藤 勲	〃	常勤	〃	元川崎市議会局長
理事	岡本 義雄	〃	非常勤	〃	川崎市全町内会連合会 理事
〃	加藤 妙子	〃	〃	〃	おと絵がたり 代表
〃	日吉 のぞみ	〃	〃	〃	川崎市PTA連絡協議会 副会長
〃	蠟山 優二	〃	〃	〃	川崎市レクリエーション連盟 副会長
〃	岩瀬 正人	〃	〃	〃	公益財団法人 川崎市生涯学習財団 常務理事(事 務局長兼務)

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	岩森 耕太郎	2020.6.25 から 2022.6 定時評議員 会の終結の時 まで	非常勤	有	特定非営利活動法人 かわさき MOVEARTOO隊 理事長
〃	志村 佳徳	〃	〃	〃	税理士

(3) 評議員

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
評議員	齊藤 準	2018.6.21 から 2022.6 定時評議員 会の終結の時 まで	非常勤	有	特定非営利活動法人 川崎市 視覚障害者福祉協会 理事
〃	佐治 克哉	〃	〃	〃	元川崎フロンターレ後援会 常務理事
〃	菅原 陽子	〃	〃	〃	夏魂太鼓 代表
〃	竹井 斎	〃	〃	〃	特定非営利活動法人 アクト川崎 理事

評 議 員	土澤 稔	2018.6.21 から 2022.6 定時評議 員会の終結の時 まで	非常勤	有	元川崎市立中学校校長
〃	永津 英二郎	〃	〃	〃	税理士
〃	仁藤 公子	〃	〃	〃	元川崎市立小学校校長
〃	前田 成東	〃	〃	〃	東海大学教授
〃	谷島 義雄	〃	〃	〃	宮前区子ども会連合会 会長

(4) 退任した役員

氏 名	退任時の地位	退任日	退任理由
宮津 健一	理事	2021年6月16日	辞任
福芝 康祐	理事	2022年3月31日	〃

(5) 役員等の報酬

区 分	人 数	報 酬 の 総 額	備 考
理 事	10人	7,604 千円	常勤及び非常勤
監 事	2人	120 千円	非常勤
評 議 員	9人	192 千円	非常勤
合 計	21人	7,916 千円	

注1；理事、監事及び評議員の報酬額は、2021年4月15日開催の評議員会において了承された「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」において定められている。

2；評議員の報酬の限度額は、定款第15条において、毎年度総額30万円を超えないものとされている。

事業報告の附属明細書 ‹‹ 2021年度事業報告 ››

(2021年4月1日～2022年3月31日)

I 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

役員の主な他の法人等の代表状況等については、4頁「2 役員等に関する事項」のとおりです。

II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】

1 市民活動推進事業

コロナ禍の下、全市・全領域の市民活動支援組織として、市民活動団体等が直面した課題への対応、新たな支援の検討と実践に取り組みました。

(1) 活動拠点施設運営事業

今年度の利用登録団体数は、新規 57 団体、計 819 団体でした。

施設・設備名	2020年度		2021年度		前年度同期比較(増減)	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
会議室 A	319 団体	2,627 人	428 団体	3,378 人	109 団体	751 人
会議室 B	289 団体	2,115 人	429 団体	3,137 人	140 団体	1,022 人
印刷室	294 団体	554 人	365 団体	615 人	71 団体	61 人
フリースペース	1,117 団体	4,564 人	1,616 団体	6,437 人	499 団体	1,873 人
パソコン(2台)	227 団体	436 人	249 団体	297 人	22 団体	△139 人
ロッカー・大(90台)	90 台		90 台		0 台	
ロッカー・小(9台)	9 台		9 台		0 台	
レターケース(54台)	50 台		48 台		△2 台	
市民活動ブース 1	認定 N P O 法人キーパーソン 21		アイサーチ・ジャパン		/	
市民活動ブース 2	Women's body labo					
市民活動ブース 3	おと絵がたり		(一社)日本保育者未来通信			
市民活動ブース 4	ランドヌ東京					
市民活動ブース 5	(一社)だじゃれ活用協会	川崎市あゆみの会	かわさき子ども食堂ネットワーク			
施設・設備等利用合計	2,246 団体	10,296 人	3,087 団体	13,864 人	841 団体	3,568 人

新型コロナウイルス感染症拡大による政府の緊急事態宣言発令及びまん延防止等重点措置の適用を受けて、平日・土曜の閉館時間の1時間繰り上げとともに、日曜・祝日の夜間閉館の対応を取りました。さらに緊急事態宣言発令中は、会議室の利用を原則 A B 会議室連結とし、実質的に定員を半分とするなど、利用者にとって安全・安心な施設となるよう対策を講じました。

(2) 情報提供・啓発事業

ア 情報紙「ナンバーゼロ」の発行

市民活動団体に有益な情報を提供するため、隔月 3,000 部を発行し、関係団体、市内公共機関に配布しました。また、利用登録団体のうち希望する 93 団体へ送付しました。

毎号、特集としてコロナ禍における助成金の有効活用法や団体の世代交代、市内のシェアスペース紹介など、団体運営に役立つ記事を掲載したほか、新連載コラムとして「川崎の企業市民活動」を開始し、読者から高い評価をいただきました。

イ ボランティア・市民活動募集冊子「ボラ・ナビ」の発行

市内のボランティア募集情報を掲載した冊子「ボラ・ナビ 2022」を川崎市社会福祉協議会と共同で 22 年 1 月末に 2,500 部発行し、市内関係機関・団体、学校等に配布しました。

96 件の団体・施設のボランティア募集情報を掲載したほか、新規活動者に活動現場の雰囲気伝えるピックアップページでは、3 団体の活動を詳しく紹介しました。

また、コロナ禍でも夏休み期間中に活動を探している生徒・学生のために、15 件の団体・施設のボランティア募集情報を「応援ナビかわさき」に掲載しました。



ボラ・ナビ 2022

ウ 神奈川新聞へのコラム「市民発」の連載

市民の目線で市民活動団体を紹介することを目的に、24 人の市民記者の取材・執筆による記事を、神奈川新聞の協力を得て「市民発 地域をつくる人・活動」と題したコラムに連載しています。昨年度に引き続き隔週木曜日の掲載となり、26 回掲載しました。

エ 市民活動ポータルサイト「応援ナビかわさき」の運営

川崎市内における市民活動のポータルサイトとして役立つよう、イベント・講座、ボランティア募集、団体情報、民間助成金等市民活動に関する最新情報を迅速に掲載するとともに、コンテンツの充実に努めました。年間のアクセス総数は 50,657 件（月平均で約 4,221 件）でした。

1 月には大幅リニューアルを実施し、スマートフォン対応、ウェブアクセシビリティなどの改善を行ったほか、サイト内検索をやすくするなど利便性を高めました。

また、新着情報などをまとめたメールマガジンをメルマガ会員（295 人）あてに配信しました。



応援ナビかわさき

オ 市民活動推進事業ウェブサイトの運営

年間のアクセス総数は 212,750 件（月平均約 17,729 件、前年度比 300 件増）でした。

コロナ禍における施設の利用状況を随時更新したほか、トップページのリニューアルを行い、ユーザーがコンテンツを探しやすいようナビゲーションを改善しました。

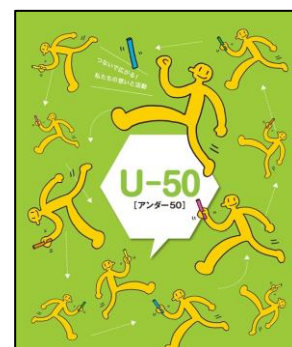
SNS も積極的に活用し、YouTube チャンネルでは助成金やごえんカフェなどの事業の動画を公開したほか、11 月には Instagram を新たに立ち上げ、Facebook と連動させつつセンターの日々の様子を動画なども活用しながら紹介しました。

カ 事業成果報告書の発行

市民活動推進事業の半期ごとの成果を「見える化」「伝える化」し、市民からの共感と支持を広く得るため、事業成果報告書を 6 月と 12 月に各 800 部発行し、賛助会員、関係団体および市内公共機関に送付しました。

キ U-50 リレーインタビュー冊子の発行

市民活動推進事業ウェブサイトにて 2018 年 3 月から連載が始まったインタビュー記事「U-50（アンダー50）」で掲載した 36 人の、その後を紹介する冊子を 1,500 部発行しました。



U-50 冊子

(3) 活動促進事業

ア ごえん楽市の開催

市民に広く市民活動を伝える場、団体の交流の場として、2 年ぶりに開催しました。緊急事態宣言発出期間中であることを考慮し、9 月の 1 か月間を「ごえん楽市・団体 PR 月間」として、センターフリースペース内での団体活動紹介パネル展示及びセンター YouTube チャンネルでの団体紹介動画の公開を行いました。パネル展示は 46 団体・3 企業、動画出展は 21 団体の参加があり、パネル展示の来場者は約 1,000 人、動画視聴回数は合計 1,765 回となりました。

また、9 月 7 日（火）には「オンライン交流会」を開催し、過去に「U-50」で紹介した 5 人の若手エースが登壇者となり、自分たちの活動紹介のほか、参加者との交流を行いました。オンラインの参加者は 19 人でした。

イ ごえんカフェの開催

団体や企業が分野を越えて交流し、新たな連携協働の芽が生まれる場として、ごえんカフェを 11 月 6 日（土）にセンターフリースペースで開催し、23 団体・企業 1 社・労働組合 1 団体の参加がありました。

ウ とともにカフェの開催

団体同士の連携やつながりづくりを目的とする「ともにカフェ」を、センターフリースペースで3回開催しました。6月27日(日)は「助成金でつながる」をテーマに8団体11人の参加があり、12月5日(日)は「企業×市民活動団体」をテーマに企業3社と7団体が参加し、2月6日(日)は「動画で団体アピール」をテーマに8団体13人が参加しました。



ともにカフェ

エ つながるマルシェの開催

市民活動団体の宣伝と収入確保を支援する「つながるマルシェ」を、9月12日(日)、3月12日(土)の2回、グランツリー武蔵小杉のピロティで開催しました。1回目は6団体、2回目は7団体が出展し、体験ワークショップや販売を行いました。当日の来場者は親子連れなどで1回目は約1,000人、2回目1,200人と賑わいました。



つながるマルシェ

オ 大学と市民活動団体との連携・協働の支援

専修大学ネットワーク情報学部の授業で学生たちが市民活動団体(9団体)と一緒に広報媒体を制作する取組を支援してきました。

2月4日(金)に、学生がその成果を発表する「かわさきNPO映像交流会」をオンラインで開催しました。



学生が制作した9団体のリーフレット

カ 市民活動メッセージボードの設置

団体の広報活動を支援することを目的に、団体が各種情報を月ごとに掲示できるメッセージボード(パネル)を、11月からフリースペースに3枚設置し、団体が制作した活動紹介やイベント告知などの掲示を行いました。

キ 市民活動ブース入居団体の懇親会の開催

市民活動ブース入居団体どうしの交流を促すきっかけづくりとして、オンライン懇親会を10月8日に開催し、3団体4人が参加しました。

(4) 研修・人材育成事業

ア パワーアップセミナーの開催

市民活動団体の課題解決とスキルアップに係るテーマで全9回開催しました。受講者アンケートによると、各講座への満足度は平均93.7%となりました。各回の概要については【13頁:別表1①】【13頁:別表1②】【14頁:別表1③】に記載しています。

イ 市民記者ブラッシュアップ講座の開催

市民記者を対象に力量を高めるセミナーを3月16日(水)に実施し、受講者は現役記者13人・OB2人でした。神奈川新聞の和城前川崎総局長を講師に、写真の撮り方を主題に市民記者の撮影技能を高める要点を講義しました。

(5) 相談事業

ア 職員による市民活動相談の実施

ボランティア活動を始めたいという相談、団体の設立や運営に関する相談、企業からの社会貢献活動の相談など、市民活動全般に関わる相談をセンター職員が対応し、年間で46件の相談がありました。

イ 専門相談の実施

士業のワンストップ体制による専門相談の実績は以下のとおりです。

区分	件数	共催
会計相談	2件	東京地方税理士会
法務相談	3件	行政書士オレンジ会(行政書士会川崎南支部有志)
	0件	神奈川青年司法書士協議会
法律相談	2件	かわさきリーガルサポートひまわり(弁護士による任意団体)

7件のうちオンライン相談は4件ありました。

(6) 連絡・調整事業

ア 市・区の市民活動支援担当者との定期的情報交換会等の開催

市民文化局市民活動推進課との定例会を1回開催しました。

イ 中間支援ネットワーク会議の開催

市内の市民活動に係る中間支援ネットワーク会議を3月22日に開催し、3機関が参加し情報交換を行いました。

ウ 川崎市社会福祉協議会との連絡調整会議の開催

川崎市社会福祉協議会・ボランティア活動振興センターとの連絡調整会議を4月21日に開催し、事業計画についての情報交換及び共催事業に関する調整等を行いました。

(7) 職員等派遣事業

各団体の要請に基づき、役員7回、職員20回を講師等として派遣しました。派遣先の主催者や対象者等については【14頁：別表2(ア)】【14頁：別表2(イ)】に記載しています。

(8) かわさき市民公益活動助成金運営事業

2021 年度かわさき市民公益活動助成金運営事業（募集期間：2020 年 11 月 20 日～2021 年 3 月 5 日）に関わる審査等の実施状況は、次のとおりです。

今年度は、16～25 歳までの若者グループが活動を始めようとするための企画と準備に助成する「U-25 チャレンジ応援助成」を新設しました（募集期間：4 月 1 日～30 日）。また、2020 年度公開事業報告会を 4 月 11 日に実施しました。

審査委員会	第二次審査（5 月 15 日、16 日） 〔第一次審査（書類審査）3 月 11 日、3 月 15 日〕
審査結果	スタートアップ助成 ・申請 11 団体 交付 10 団体
	ステップアップ助成（30・100・200） ・申請 41 団体 交付 24 団体
	コラボ 50 助成 ・申請 6 団体 交付 5 団体
	U-25 チャレンジ応援助成【新規メニュー】 ・申請 3 団体 交付 3 団体
	組織基盤強化助成 ・申請 7 団体 交付 7 団体
交付総額	16,490,052 円 (内訳 = 川崎市：13,165,052 円・河川財団：3,325,000 円)

上記組織基盤強化助成のほか、団体運営・事業運営に対する支援としてコラボ 50 助成交付団体（5 団体）に対して、事業が円滑に進むよう専門家を派遣したほか、スタートアップ・ステップアップ 30・100 助成交付団体（10 団体）に対して、事業報告書の作成に係る伴走支援を行いました。

(9) 川崎市からの受託事業

ア 川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務

川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務を受託しました。2021 年度の状況は、次のとおりです（支払い未完了含む）。

期 間	申請件数	支払件数	支 払 額	昨年度実績
2021 年 4 月～2022 年 3 月	18 件	12 件	991,820 円	436,000 円

イ 川崎市協働・連携ポータルサイト「つなぐっと KAWASAKI」管理・運営事業

川崎市から、協働・連携ポータルサイト「つなぐっと KAWASAKI」のコンテンツ情報の拡充などを行う管理・運営業務を受託しました。

(10) 職員研修

職員の資質向上や必要とする知識習得等を目的に、市内外で開催される研修やシンポジウムなどに派遣しました。派遣した研修の内容等については【15 頁：別表 3】に記載しています。

(11) 賛助会員の確保

事業成果報告書を活用するなど新規会員の拡充に努めました。2021 年度の収入状況は、次のとおりです。

種 別	会 費 (1 口)	2020 年度末			2021 年度末		
		会員数	口 数	賛助総額	会員数	口 数	賛助総額
個人会員	1,000 円	51 人	121 口	121,000 円	59 人	204 口	204,000 円
団体会員	5,000 円	30 団体	36 口	180,000 円	27 団体	36 口	180,000 円
合 計		81 人・ 団体	157 口	301,000 円	86 人・ 団体	240 口	384,000 円

(12) 募金・寄付等の取組

ア ボランティア・市民活動募金

募金箱を当センター窓口やご協力を得た市内事業者各店舗へ設置しています。募金箱その他を合わせて、2021 年度は 351,238 円の寄付がありました（前年度 105,754 円）。

イ 不用品買い取り額の寄付

自主財源を確保する方策として、不要な本や CD・DVD・ゲームソフト・雑貨などを所有者がブックオフオンラインで売却し、その買い取り金額がセンターへ送金される仕組み（「キモチと。」）を導入し、69,573 円の寄付がありました。「不要品を処分して市民活動を応援しよう！」を合言葉に市民活動推進事業ウェブサイトおよびチラシで広報しました。



「キモチと。」チラシ

(13) その他

ア 後援名義の使用許可

申請のあった 11 団体に対して、後援名義の使用を許可しました。

イ 表彰推薦

川崎市社会福祉事業功労者表彰の「市長表彰」に社会福祉法人川崎いのちの電話を、同「川崎市社会福祉協議会会長表彰」に地域子育て応援団「おいでおいでルーム」を推薦したところ、それぞれ受賞が決定しました。また公益財団法人社会貢献支援財団の「社会貢献者表彰」に NPO 法人ウィメンズハウス・花みずきを推薦したところ、受賞が決定しました。さらに神奈川県弁護士会の「神奈川県弁護士会人権賞」に川崎いのちの電話を推薦したところ、受賞が決定しました。

【別表1】パワーアップセミナー

①センター単独開催セミナー

開催日	内 容		参加	開催場所
第1回 4月17日	テーマ	双方向のコミュニケーションを生み出すコツ	12人	オンライン
	講師	坂本郷子 (NPO 法人コモンビート 表現イベント事業部)		
第2回 5月29日、 6月10日	テーマ	スマホで作る【活動紹介1分動画】 プロが教える初めての動画制作	30人	センター 会議室・ オンライン
	講師	渡川修一 (映像クリエイター)		
第3回 7月10日、 7月24日	テーマ	プレスリリースで団体の発信力UP! メディアに「届く」「伝わる」文章と活動を「魅せる」写真選びのコツ	10人	センター 会議室
	講師	北原まどか (NPO 法人森ノオト)		
第4回 8月28日	テーマ	手にしてもらえらるチラシで集客力をあげるコツ	18人	オンライン
	講師	並木節子 (かわさき市民活動センター)		
第5回① 10月16日	テーマ	社会調査①「地域で生じている課題を明らかにする。」	14人	センター 会議室
	講師	阿部真紀 (NPO 法人エンパワメントかながわ)		
第5回② 11月13日	テーマ	社会調査②「活動を裏づけ説得力を生み出すデータの活用」	13人	センター 会議室
	講師	有海拓巳、石川翔大 (株式会社浜銀総合研究所)		

②川崎市社会福祉協議会との共催セミナー

開催日	内 容		参加	開催場所
第6回 2月6日	テーマ	どうする? with コロナ⇔after コロナの市民活動と組織運営	7人	オンライン
	講師	呉哲煥 (NPO 法人 CR ファクトリー)		
第7回 3月27日	テーマ	対立から対話へすすめる組織のカタチ	12人	オンライン
	講師	長浜洋二 (モジョコンサルティング合同会社)		

③川崎市との共催セミナー

NPO法人向け特別講座

「決算をのりきるためのNPO法人の会計と税務の基本」

開催日	内 容		参加	開催場所
1月29日	テーマ	NPO法人の日々の会計実務と決算	14人	センター 会議室
	講師	深谷 豊（公認会計士・税理士）		
2月5日	テーマ	NPO法人の税務	16人	
	講師	深谷 豊（公認会計士・税理士）		

【別表2】

(ア) 役員派遣状況

開催日	主催者	テーマ	対象	開催場所
6月18日	多摩区役所 地域ケア推進課	多摩区子育て支援者養成講座 「ボランティアって何?～楽しく続けるために～」	市民	多摩市民館
10月22日	宮前区役所 地域みまもり 支援センター	健康づくりボランティア養成講座 「ボランティアと地区組織活動：知己でボランティア活動を行うために！」	市民	宮前区役所
11月2日	川崎区役所 地域みまもり 支援センター	川崎区すくすく子育てボランティア養成講座 「ボランティア活動ってなに?～楽しく続けていくために～」	市民	川崎区役所
11月5日	川崎区役所 地域みまもり 支援センター	健康づくりサポーター・食生活改善推進委員 養成講座 「ボランティアって何?～楽しく続けていくために～」	市民	川崎区役所
2月19日	幸市民館	幸市民館生涯学習交流集会 「これからの市民活動について」	市民	幸市民館
3月10日	川崎市 文化財団	パラアートミーティング ゲストアドバイザー	市民	総合自治会館
3月12日	宮前市民館	宮前市民館生涯学習交流集会 「これからの市民活動について」	市民	宮前市民館

(イ) 職員派遣状況

開催日	主催者	テーマ	対象	開催場所
4月18日	宮前区まちづくり協議会	令和2年度宮前区まちづくり協議会活動支援金活動結果報告会への出席	市民活動団体	宮前区役所 大会議室
5月23日	宮前区まちづくり協議会	令和3年度宮前区まちづくり協議会活動支援金説明会及び審査会	市民活動団体	宮前区役所 大会議室
6月18日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	第1回交流推進部会	部会委員	オンライン
6月23日	日本NPOセンター	NPO/NGOの組織基盤強化のためのオンラインセミナー&ワークショップ	市民活動関係者	オンライン

7月6日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	川崎中学校出前授業	中学生	川崎中学校
7月16日	専修大学ネットワーク情報学部	専修大学ネットワーク情報学部「応用演習」でのかわさき市民活動団体の説明	学生	生田キャンパス
9月7日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	第2回交流推進部会	部会委員	川崎区役所第1・2会議室
9月25日・11月6日	中原区役所生涯学習支援課	令和3年度中原市民館市民エンパワメント研修「デジタル難民支援者養成講座」	市民	中原市民館第2会議室
10月17日	健康福祉局保健所動物愛護センター	かわさき犬・猫愛護ボランティア講習会	市民	資料提供
11月17日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	田島中学校出前授業	中学生	田島中学校
11月23日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	知ろう！学ぼう！かわさき企業市民交流Day	市民	川崎ルフロン1階イベントスペース
11月25日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	第2回川崎区企業市民交流事業推進委員会	委員会委員	オンライン
12月18日	市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課	川崎ワカモノ未来PROJECT 成果発表会「ハナサク Presentation」審査員	高校生	第4庁舎2階ホール
12月21日	公益財団法人公園緑地協会	花と緑のまちづくり講座	市民	中原区役所502会議室
1月20日	専修大学ネットワーク情報学部	大学連携応用演習発表会	大学生	オンライン
1月27日	認定NPO法人カタリバ	川崎市立橘高等学校探究学習最終発表会ゲストメンター	高校生	川崎市立橘高等学校
2月14日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	第3回交流推進部会	部会委員	オンライン
3月4日	中原区役所まちづくり推進部企画課	第4回中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会	市民	オンライン
3月14日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	第3回川崎区企業市民交流事業推進委員会	委員会委員	川崎区役所会議室
3月18日	中原区役所まちづくり推進部企画課	第5回中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会	市民	オンライン

【別表3】職員研修

開催日	主催者	内 容	開催場所
4月23日	NPO 支援財団研究会	NPO 支援財団研究会 2021WEB シンポジウム	オンライン
4月26日	中国5県中間支援組織連絡協議会	中間支援組織・支援センター役職員向け合同研修2021	オンライン

5月31日	非営利組織評価センター	JCNE マンデーサロン（2021年5月編）～団体の持続性と信頼性を高める組織運営～	オンライン
6月5日	NPO 法人 CR ファクトリー	研究成果報告イベント：良質なコミュニティをどのようにつくっていくか～優れているコミュニティが考えていること・やっていること～	オンライン
7月1日	川崎ブレイブサンダース	第2回 企業・法人向けSDGsフォーラム～企業の先進事例に学ぶSDGs～	オンライン
7月14日	パナソニック株式会社	NPO/NGOの組織基盤強化を考える4日間～社会変革を生み出せる組織へ～ セッション4：プロボノのススメ	オンライン
7月15日	パナソニック株式会社	NPO/NGOの組織基盤強化を考える4日間～社会変革を生み出せる組織へ～ セッション6：組織基盤強化の支援を効果的に行うには	オンライン
8月13日	株式会社ガハハ	冬募金をグレードアップ！に必要な考え方とノウハウを学ぶ90分	オンライン
8月28日	横浜市市民協働推進センター	“ポストコロナ”の参加の場の開き方	オンライン
9月3日	日本NPO学会	日本NPO学会ウェビナー「休眠預金活用事業の現状と課題」	オンライン
9月6日	日本NPOセンター	会員サロン「変化する社会と市民の新しい活動スタイル～市民セクター全国会議2021プレ会議～」	オンライン
9月17日・ 9月24日	日本NPOセンター	NPO/NGO組織基盤強化サポート研修 9月17日：基礎レクチャー(1)「本研修における組織基盤強化の考え方と組織診断の概要」 9月24日：基礎レクチャー(2)「実践者から聞く～組織をみる視点」	オンライン
9月20日	NPO法人アクションポート横浜	NPO インターンシップラボシンポジウム2021「コーディネーション×ICTでプログラムを加速する！」	オンライン
9月26日	福井市総合ボランティアセンター	捨てるどころナシの助成金活用術	オンライン
9月27日	独立行政法人福祉医療機構	令和3年度WAM助成シンポジウム「NPOと行政との協働の現在地～地域共生社会の実現に向けて～」	オンライン
9月27日	一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ	ボランティア活動支援施設 新任スタッフ研修会	オンライン
9月30日	町田市地域活動サポートオフィス	団体の事業計画をつくる連続講座「まちだづくりカレッジ」最終報告会	オンライン
10月30日	NPO法人西条まちづくり応援団	ICTを活用したNPO法人の事務局運営	オンライン
11月26日・ 27日	日本NPOセンター	市民セクター全国会議2021	オンライン
11月23日	日本NPOセンター	日本NPOセンター25thアニバーサリー「未来へのメッセージ&シンポジウム」	オンライン
12月11日	市民文化局コミュニティ推進部 市民活動推進課	カワサキコネクト2021～伝えるちから、つなげる想い～	総合自治会館
12月12日	公益社団法人日本サードセクター経営者協会	NPOが生み出す新しい生活様式成果報告会	オンライン

12月17日	ヤフー株式会社	NPO向けプロに学ぶ「伝わる」活動紹介動画の作り方講座	オンライン
12月25日	一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ	神奈川の間支援の情報交流会	オンライン
1月23日	東京ボランティア・市民活動センター	【シンポジウム】これからのボランティア・市民活動～コロナ後の新たな展開へ～	飯田橋セントラルプラザ
1月27日	川崎市社会福祉協議会・ボランティア活動振興センター	令和3年度第1回ボランティアコーディネーター研修	オンライン
2月13日	東京ボランティア・市民活動センター	ボランティアフォーラム TOKYO2022 分科会No.25「市民活動の引き継ぎ方を考える」No.27「東京ボランティア・市民活動センターのこれまでとこれから」	オンライン
2月23日	中原区役所まちづくり推進部企画課	中原区地域デザイン会議	オンライン
2月23日	日本政策金融公庫	ソーシャルビジネスシンポジウム	オンライン
2月17日	川崎市市民文化局市民文化振興室	「映像のまち・かわさき」推進フォーラム全体交流会	オンライン
3月19日	コスギアートラ・ファブリカ実行委員会	公開シンポジウム アートDEまちづくり その可能性を考える	中原区役所
3月11日	川崎市市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課	はじめて学ぶクラウドファンディング オンライン講習会	オンライン
3月5日	川崎市市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課	川崎プロボノ部 2021 報告会&市民講演会	オンライン

2 青少年健全育成事業

2021年度の主な取組は次のとおりです。これまでの経験と知識を活かし、こども文化センター53館・わくわくプラザ102施設等の適切な管理・運営に努めました。

※2020年8月に小杉こども文化センターが開設され、こども文化センターが53館となりました。

(1) こども文化センター事業

ア 基本方針

子どもたちの安全確保を旨とし、遊びや行事等にも工夫を凝らし、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所づくりに取り組むとともに、様々な世代が集まる地域の拠点としての機能の強化にも取り組みました。

また、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言（2回目）は、2021年3月末に解除になったものの、リバウンド対策やまん延防止等重点措置の感染対策を経て、8月から9月には3回目の緊急事態宣言、1月から3月は、まん延防止等重点措置が発令されました。

計画的に運営を進めるための「こども文化センターの段階的な運営」についても、喫食や遊具の共有禁止等、衛生管理を強化し、事業の推進と制限を繰り返しながら、感染拡大防止に努めました。

こども文化センターの段階的な運営

段 階	期 間	利 用 時 間	主 な 運 営 内 容 等
学校の臨時休校から緊急事態宣言	2020年 3/4～ 4/10	月～土 9:30～21:00 日 祝 9:30～18:00	やむを得ない特別な事情で家に居ることが難しい児童生徒以外の利用は自粛及び団体利用の中止
緊急事態宣言	4/11～ 5/31	臨 時 休 館	※緊急事態宣言は4月7日発令。対応、周知のため、4/11～臨時休館
第 1 段 階	6/1～ 6/18	月～土 9:30～19:30 日 祝 9:30～16:30	運動・飲食・行事・団体利用の禁止
第 2 段 階	6/19～ 7/9		個人で作業する活動・行事の再開 団体利用の再開（運動、夜間等を除く）
第 3 段 階	7/10～ 10/12	月～土 9:30～20:30 日 祝 9:30～17:30 ※利用時間は7/1～変更	飲食の再開 複数名で作業する活動・行事の再開（運動を除く） 密集を伴わない運動の再開 夜間の団体利用の再開
第 4 段 階	10/13～ 2021年 1/7		定員50名以上の行事の再開 徒歩で行ける範囲での校外活動の再開 グループワークを含む行事の再開 大人による調理品を提供する行事の再開 歌唱・管楽器などの演奏を伴う行事の再開
緊急事態宣言（2回目）	1/8～ 3/21	月～土 9:30～20:00 日 祝 9:30～17:30	第3段階の内容と同等 但し、調理を伴わないグループワークは実施可
緊急事態宣言（2回目）解除	3/22～ 4/19		感染者数のリバウンドや医療の逼迫防止に努めるため、月曜日～土曜日の利用時間のみ変更し、運営内容は上段を延長
まん延防止等重点措置	4/20～ 8/1	月～土 9:30～20:00 日 祝 9:30～17:30	
緊急事態宣言（3回目）	8/2～ 9/30		感染者の急増（特に児童の感染増）を鑑み、喫食の禁止、遊具の共有を禁止

緊急事態宣言 (3回目) 解除	10/1～ 10/21	月～土 9:30～20:30 日 祝 9:30～17:30	喫食、遊具共有の禁止を解除
第5段階	10/25～ 2022年 1/22		管轄施設を超えて児童が集まる合同事業の再開 歌唱・管楽器などの演奏を伴う活動の再開 調理を伴う活動の再開 公共交通機関を使用した活動の再開 まつり等の大規模な行事の再開
まん延防止等重点措置	1/23～ 3/21		ほぼ第4段階の内容と同等 但し、喫食の禁止、遊具の共有を禁止
まん延防止等重点措置解除	3/22～		ほぼ第5段階の内容と同等

こども文化センター利用状況推移表

利用者種別	2019年度 (52館)	2020年度 (53館)	2021年度 (53館)	前年度比較 (増減)
乳幼児	284,338人	128,414人	190,505人	62,091人
小学生	615,983人	231,077人	394,623人	163,546人
中学生	152,000人	72,156人	115,635人	43,479人
高校生	28,437人	16,124人	22,708人	6,584人
成人	385,947人	189,987人	282,359人	92,372人
利用者合計 (一館あたり)	1,466,705人 (28,206人)	637,758人 (12,033人)	1,005,830人 (18,978人)	368,072人 (6,945人)
内団体利用人数	239,132人	126,521人	173,810人	47,289人

※2020年8月に小杉こども文化センターが開設され、53館となりました。

※2019～2021年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、臨時休館、利用時間の変更、運営内容の制限などを設けて運営しました。

イ 地域人材の育成と活動の場の提供

(ア) 運営協議会との連携強化

全てのこども文化センターでは、地域と連携した館運営を行うために、地域の方々が委員となった運営協議会を設置しています。運営協議会では、こども文化センターの様々な課題について協議を行い、施設利用のルール作りや地域団体との橋渡しを担うとともに、行事等にも積極的に参画するなど、その役割は多岐にわたっています。

全市で128回(各館平均2回)の運営協議会が開催され、延べ1,208名の運営委員の方に参加していただきました。

また、各館では、運営協議会の委員の方々に、多くのご支援・ご協力をいただき「こすぎっこレンジャー」

「MARUCO de あそぼう」「ゆりっこミニフェスティバル」「みんなでマスクチャームづくり」「猿まわしを見よう」「パッと光って咲いた」「二子ニコフェスティバル」「ちいきたんけん隊!!よみちパトロール&安全マップづくり」「かきっこ芸術祭」等の特色ある行事を開催しました。



かきっこ芸術祭

各館の運営協議会で出された意見や結論を集約し、行事日程や事業内容の確認・調整など、こども文化センターの運営に活かしました。

(イ) 地域活動の担い手の育成機能強化

利用児童で組織する「子ども運営会議」は、延べ693回（各館平均13回）開催され、延べ3800人（各館平均72人）が参加しました。子どもたち自身の企画・運営により「みやっこパトロール」「子どもスタッフ主催～おたのしみかい～」「デュエマ大会」「みんなでスポーツ」「みんなで勉強会」「お化け屋敷」「やりたい行事を形にしよう」「ダンボールハウス」等、様々な行事が実施されました。

また、中学生・高校生の利用に際しては、主体的な活動の尊重・支援を基本とし「夜間卓球の日」「百人一首大会」「GUITAR DAYS」「大乱闘タコヤキブラザーズ」等、様々な工夫を凝らした行事に取り組みました。

これらの活動を通じて、子ども自身が地域の一員であることを自覚できるよう取り組み、地域活動の担い手となるよう育成・支援を図りました。



ダンボールハウス

(ウ) 活動の場の提供機能強化

こども文化センターは地域の児童の健全育成に寄与するという目的施設ですが、児童の利用が少ない時間帯については、地域のボランティアや市民活動団体等の方々の活動の拠点として利用していただいています。

また、市民活動団体や地域の方々に協力いただき「バルーンアートを楽しもう」「骨盤ストレッチ&美脚ヨガ」「DAISHIキッズDANCE」「産後ケアヨガ」「MUSICAL ASADA」「いのちのバトン」等を、企画・実施し、多世代連携を推進しました。



産後ケアヨガ

団体利用状況

団体種別	2019年度 (52館)	2020年度 (53館)	2021年度 (53館)	前年度比較 (増減)
青少年	2,765団体	1,744団体	2,509団体	765団体
市民活動	9,347団体	6,091団体	9,850団体	3,759団体
幼児G	5,231団体	3,867団体	4,747団体	880団体
その他	301団体	140団体	456団体	316団体
計	17,644団体	11,842団体	17,562団体	5,720団体

※2019～2021年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、臨時休館、利用時間の変更、運営内容の制限などを設けて運営しました。

音楽室が設置されているこども文化センター4館については、新型コロナウイルス感染症予防対策として、状況に応じて音楽室の利用制限を設けながら利用していただいた結

果、中学生・高校生のほか、地域音楽活動の拠点として延べ3,265団体・3,609人が音楽室を利用しました。新型コロナウイルスに伴う音楽室の利用制限については【31頁：別表1】、各施設の利用状況については【31頁：別表2】に記載。

(2) わくわくプラザ事業

ア 基本方針

わくわくプラザは、すべての小学生を対象としています。そのため、日頃から小学校との連携を密にして、子どもたちの様子や学校の月間スケジュール、わくわくプラザの行事日程等の情報交換を行っています。子どもたちが、放課後・土曜・長期休業日等に安心して楽しく過ごすことのできる、また、保護者が安心して子どもを託すことができる事業運営に努めました。

また、密集を避けるため、利用対象を、保護者の就労等により「やむを得ない特別な事情で自宅にお子様を見守る方がいない家庭の児童」のみを対象とし、消毒や換気に努めるなど衛生管理を強化しながら運営しました。

さらに、感染者が急増（特に児童の感染増）した際には、密集を回避するため、おやつの時間を変更したり、遊具の共有を禁止し、感染拡大防止に努めました。

わくわくプラザ利用状況 年間利用状況推移表

種 別	2019年度 (102施設)	2020年度 (102施設)	2021年度 (102施設)	前年度比較 (増減)
在 校 児 童 数	66,222人	66,159人	66,324人	165人
登 録 児 童 数	32,731人 (1,465人)	23,736人 (1,331人)	22,327人 (1,484人)	▲1,409人 (153人)
登 録 率	49.4%	35.9%	33.7%	▲2.2%
利 用 人 数	2,127,963人 (138,424人)	1,278,703人 (114,783人)	1,613,947人 (139,631人)	335,244人 (24,848人)
1 日 平 均 利 用 者 数	7,338人 (477人)	4,701人 (422人)	5,508人 (477人)	807人 (55人)

※2019～2021年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、臨時休館、利用時間の変更、運営内容の制限などを設けて運営しました。

※（ ）内は特別な支援を必要とする児童の内数です。また、2019年度より「障がい」のほかに、「集団が苦手」「てんかん」「重度アレルギー」「日本での生活が不慣れ」等、特別な配慮を要する児童の対象範囲が拡大されました。

イ プログラムの充実

利用児童で組織する「子ども運営会議」は、延べ1,312回（各わくわくプラザ平均13回）開催され、合計32,047人（各わくわくプラザ平均314人）が参加し、子どもたち自身の企画・運営により「井田っ子探検パトロール」「逃走中」「医療従事者応援メッセージ」「わくわくスポーツイベント」「花いっぱいになあれ」等、様々な行事が実施されました。



花いっぱいになあれ

また、各施設の地域状況に応じて、関係機関（幼稚園・保育園、学校、老人いこいの

家、高齢者施設、地域の寺子屋、子ども会、地域団体・人材、企業、行政機関等）と連携して「宇宙教室」「ロボット・プログラミングによる動画づくり」「フィンランドとリモート 紙飛行機づくり」「リモートで！みんなでおどろう！」「カゴメ野菜チャレンジ」「タブレットですきなキャラつくってプログラミングしよう！！」「科学実験教室」「食育と歯磨き指導」などを実施し、子どもたちに様々な体験活動を提供しました。

ウ 学習タイムの実施

子どもたちの学習習慣の形成を図り、落ち着いて自学・自習ができる時間と場所を確保するため、平日の17:00～17:30までを、学習タイムとし、利用児童全てがこの時間帯に、学校の宿題や持参した学習ドリル等に取り組みました。土曜日・長期学校休業日等については、時間帯や活動時間は各施設のプログラムに合わせて、必ず実施しました。

また、宿題が終わった児童等に、東京学芸大学こども未来研究所と朝日新聞社の共同研究を活用したあそびのプラットフォーム「すき！がみつかる 放課後ののしーと」を提供し、遊びながら勉強に取り組める環境を整えました。

エ 「地域の寺子屋」との連携

川崎市は、元教員、地域住民、学生、保護者などが寺子屋先生となり、週1回、放課後に学習支援をしたり、月1回、体験学習・世代間交流のイベントを実施する「地域の寺子屋事業」を推進しています。

わくわくプラザは「地域の寺子屋事業」の学習支援の取り組みを見学させていただいたり、土曜日の体験教室に参加したりし、連携強化に努めることを方針としています。

今年度については、新型コロナウイルス感染症予防対策を踏まえながら、寺子屋事業者と調整を行い「わくわくエンジンプロジェクト体験」「コスミックカレッジ」「川崎純情小町コンサート」「寺子屋で竹細工を体験しよう」等の体験教室にわくわくプラザ児童が参加しました。また、寺子屋事業者に講師を依頼し「防犯教室」をわくわくプラザで開催しました。

オ 子育て支援・わくわくプラザ事業への対応

「子育て支援・わくわくプラザ事業」とは、川崎市が実施している事業で、就労等により、わくわくプラザの門限である午後6時までに児童のお迎えが難しい保護者のため、午後7時までわくわくプラザを延長するサービスのことです。当財団は、この業務を川崎市から受託し、全てのわくわくプラザで実施しました。

利用状況

種 別	2019年度 (102施設)	2020年度 (102施設)	2021年度 (102施設)	前年度比較 (増減)
登 録 児 童 数	2,841人 (136人)	2,684人 (118人)	2,261人 (109人)	▲423人 (▲9人)
延 べ 利 用 人 数	140,323人 (6,805人)	64,224人 (4,360人)	74,493人 (4,476人)	10,269人 (116人)
1 日 平 均 利 用 人 数	587人 (28人)	264人 (18人)	307人 (18人)	43人 (0人)

※（ ）内は特別な支援を必要とする児童の内数です。また、2019年度より「障がい」のほかに、「集団が苦手」「てんかん」「重度アレルギー」「日本で生活が不慣れ」等、特別な配慮を要する児童の対象範囲が拡大されました。

(3) こども文化センター・わくわくプラザ共通事項

ア 財団独自の取組

(ア) 複数館による合同事業の開催

施設の枠を超えた児童の親睦と交流の輪を広げることを目的とした様々な行事を、全施設が計画しました。

新型コロナウイルス感染症予防対策として、事前に準備会や予選等を行う参加者の分散化やオンラインの活用等、様々な対策を検討しながら取り組んだものの、2回目の緊急事態宣言の発令により、中止にせざるを得ない計画もあり、今年度については29回の事業が実施でき、延べ11,003人が参加しました。

合同事業については【32頁：別表3】に記載。

また、子どもたちが共通の遊びに挑戦し記録を競う「こんちゃれ（今月のチャレンジ）」を毎月実施し、幼児から高校生までの延べ26,300人が参加しました。

(イ) いのちの大切さを伝える事業

子どもたちが「いのちの大切さ」について考える機会を設けるため、各施設で「東日本大震災をわすれない」「シェアドッグふれあい体験会」「いのちMIRAI教室」などの事業を実施しました。

また「いのちの大切さを伝える読み聞かせ事業」として「いのちのまつり」「いのちをいただく」「へいわってすてきだね」「いじめのきもち」「ずっとずっとだいすきだよ」「いきものがかり倶楽部」等の本を読み聞かせました。

さらに、例年「被爆体験紙芝居」を実施してくださるNPO法人ナガサキピーススフィア員の火運動と連携し、今年度は紙芝居の実施は止め「いのちの大切さを伝える事業～『百年の笑顔へ』世界の子どもたちの笑顔のパネル展～」を、21施設のこども文化センター・わくわくプラザで実施しました。



『百年の笑顔へ』
世界の子どもたちの笑顔のパネル展

(ウ) 多様性への理解を深める事業

子どもたちが年齢・性別・障がい・国籍等、多様な人々への理解を深め、相手を思いやり、互いに認め合うことができる豊かな心を育成するため「支え合うってなんだろう」「世界の言葉であそぼう」「スペインを知ろう!」「多文化オンライン☆ベトナムと繋がろう」「日本と外国のことを知ろう」「体を動かしながら外国語に触れよう!」などを実施し、多様性への理解を深める取り組みを推進しました。



多文化オンライン☆ベトナムと繋がろう

イ 多世代連携について

各施設では、地域の様々な特技・知識等を持つ方々にボランティア講師となっただき、地域の子どもと大人が共に遊び、育み合う環境を醸成する取り組みとして「やかん寄席」「殺陣ワークショップ」「こすぎっこステージ&チェロコンサート」「冬のお楽しみウォークラリーinたちばな」「子育て講座～子育て中の性教育～」「ケガ防止教室 ～上手な転び方を学んで遊ぼう～」等、様々な事業を実施し、ボランティアと子どもたちの交流を推進しました。

また、こども文化センターまつりを多世代交流の象徴的な取り組みとして位置づけた方針としていますが、運営協議会等、関係機関と、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて協議し、時間やブースを縮小して開催するなど、各館で対応しました。

ウ 学校及び行政機関等との連携

円滑な事業運営に資するために、地域で開催される様々な会議（生涯学習推進会議、地域教育会議等の会議）に出席し、地域情報を得るとともに、こども文化センター・わくわくプラザの情報を提供するなど、情報の共有を図りました。

また、区役所（保健福祉センター・地域みまもり支援センター等）、地域団体（子ども会等）が実施する行事に積極的に参加し、地域関係機関等との連携強化に努めました。

なお、例年、区役所等が主催する子育てフェスタ等のイベントに、遊びや工作のブースを出展していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、参加したイベントは次の通りとなりました。

主催者	開催日	事業名	内容	開催場所
中原区	8月14日	中原区パラリンピック聖火採火式	展示 メッセージ参加469枚 /総数730枚	中原区役所1階
中原区	11月30日 ～12月5日	なかはら子ども未来フェスタWEEK 2021	展示 メッセージ参加375枚 /総数650枚	グランツリー 武蔵小杉
高津区	11月6日	高津区子ども・子育てフェスタ	展示	高津市民館11階
多摩区	3月6日	親子で楽しむ春の子育てミニまつり	ワークショップ	多摩市民館 児童室・会議室

エ 特別な配慮を必要とする利用者への対応方法

特別な支援を必要とする児童に対し、より適切な対応が行えるよう、元特別支援学校の教諭や小学校の校長経験者等の巡回相談員を8人配置しました。巡回相談員は、豊かな経験と専門知識を持ち、当該業務に従事するスタッフのアドバイザーとして、またスタッフ研修の講師として活躍しました。

また、学校や家庭との日頃からの連携・情報の共有に努めるとともに、発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センター、放課後デイサービス等の関係諸機関との連携強化にも取り組みました。

オ 安全・安心の確保

(ア) 事故について

児童の安全・安心の確保は本事業の基本であり、職員一人ひとりがそのことを常に念頭に置いて日々の業務にあたるよう心がけました。

また、遊具の安全確認、適切な見守り配置、子どもたちへの声掛け、準備運動等、様々な取り組みについて定期的に見直すとともに、館長会議や各施設の会議にて、他施設での事故事例を共有し、類似事故の防止対策を検討しました。これに加え、今年度は全施設で事例検討を行い、本部・各館が一丸となって事故ゼロ運動を推進しました。

また、利用児童が怪我を負った場合は「事故対応マニュアル」に基づいて、迅速かつ適切な対応に努めました。

①こども文化センターでの事故について

こども文化センターで起きた16件の事故のうち、12件は集会室での運動時の怪我となっています。多くは、バドミントンの際の怪我が多くなっているため、職員からの声掛けを強化しました。

過去5年間のこども文化センターにおける事故の件数

月	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
4月	2 (1)人	2 (0)人	0 (0)人	0 (0)人	3 (0)人
5月	2 (1)人	3 (1)人	2 (1)人		1 (1)人
6月	1 (0)人	4 (2)人	2 (2)人		1 (1)人
7月	3 (1)人	1 (0)人	2 (0)人	0 (0)人	2 (2)人
8月	1 (1)人	3 (1)人	3 (1)人	1 (0)人	1 (1)人
9月	2 (0)人	2 (1)人	2 (0)人	0 (0)人	0 (0)人
10月	3 (1)人	2 (0)人	3 (0)人	1 (0)人	2 (1)人
11月	1 (1)人	4 (1)人	1 (1)人	0 (0)人	1 (0)人
12月	3 (1)人	2 (1)人	1 (1)人	1 (0)人	0 (0)人
1月	0 (0)人	1 (1)人	1 (1)人	0 (0)人	2 (0)人
2月	5 (5)人	2 (0)人	0 (0)人	1 (0)人	3 (0)人
3月	5 (1)人	0 (0)人	0 (0)人	0 (0)人	0 (0)人
計	28 (13)人	26 (8)人	17 (7)人	4 (0)人	16 (6)人

* () は4日以上通院の事故内数 (2021年3月31日現在)

* 臨時休館(4月11日~5月31日)

②わくわくプラザでの事故について

わくわくプラザにおける事故件数は162件となっています。発生率の高い怪我としては、擦傷・打撲79件、捻挫・突き指24件、骨折(ヒビ含む)23件が挙げられます。全施設で事例検討を行い、他施設での事故を共有する事で事故防止に努めました。

過去5年間のわくわくプラザにおける事故の件数

月	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
4月	14 (3)人	21 (5)人	15 (3)人	6 (2)人	20 (2)人
5月	20 (3)人	14 (2)人	11 (3)人	2 (0)人	15 (4)人
6月	14 (6)人	15 (4)人	18 (4)人	6 (2)人	17 (1)人
7月	17 (4)人	11 (2)人	13 (4)人	15 (4)人	17 (1)人
8月	15 (5)人	8 (1)人	9 (1)人	7 (1)人	10 (1)人
9月	5 (0)人	4 (2)人	3 (0)人	9 (1)人	11 (1)人
10月	7 (3)人	9 (3)人	12 (4)人	14 (4)人	14 (3)人
11月	17 (5)人	16 (6)人	16 (3)人	16 (1)人	12 (2)人
12月	17 (4)人	10 (0)人	10 (0)人	22 (4)人	17 (0)人
1月	7 (3)人	12 (2)人	11 (1)人	6 (0)人	10 (1)人
2月	10 (1)人	9 (0)人	8 (1)人	12 (2)人	7 (2)人
3月	11 (0)人	9 (0)人	3 (1)人	16 (3)人	12 (2)人
計	154 (37)人	138 (27)人	129 (25)人	131 (24)人	162 (20)人

* () は4日以上通院の事故内数 (2021年3月31日現在)

③その他の場所での事故について

わくわくプラザの登下校時の事故は41件でした。

児童が退室する際は、気を付けるよう注意喚起をするとともに、一人帰りの児童の保護者へ対し、帰宅時間や経路について、児童と一緒に検討していただくよう、迎え時やたよりを通して働きかけました。

また、利用児童と共に地域の危険箇所を確認しながら安全マップを作成し、掲示することを通じて、子どもたちの安全意識の向上に努めました。

さらに、日本損害保険協会等が主催する「ぼうさい探検隊マップコンクール」において、応募総数971作品の中から向丘小学校わくわくプラザが気象庁長官賞、三田子ども文化センター及び宮崎小学校わくわくプラザが佳作に選ばれました。



向丘小学校わくわくプラザ

(イ) 感染症予防対策

感染症、食中毒等の予防策として、手洗い、うがいを励行するとともに、児童の弁当や行事に使用する食品の管理を徹底しました。

また、新型コロナウイルス感染症予防対策については、次の取り組みを通じて、感染防止を図りました。

新型コロナウイルス感染症予防対策

衛 生 管 理	<ul style="list-style-type: none"> ・当財団で雇用した産業医に、子ども文化センター、わくわくプラザを巡視していただいた上で、衛生管理などについて、助言をいただきました。 ・産業医の助言に基づき、手洗い、手指消毒、マスクの着用、対人的距離の確保に努めたほか、適切な喚気や、机・テーブル・ドアノブ等、利用者が手を触れやすい場所の消毒等を実施しました。
---------	--

<p>予 算 確 保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・（公財）JKA の補助事業「新型コロナウイルス感染症の拡大防止策に対する支援」を活用して2,359,000円の補助金を得て、こども文化センター53館にサーマルカメラを設置しました。 ・「川崎市新型コロナウイルス感染症対策事業補助金」を活用し、次の取り組みを実施しました。緊急包括支援交付金を活用し取り組みの総額は、45,969,922円となります。 ①衛生用品等のための消耗品費15万円をこども文化センター及びわくわくプラザ各施設に追加配当しました。 ②本部にて、パーテーションの一括購入を行い、利用者の多いわくわくプラザに配布しました。 ③職員及び臨時職員に対し、個人が日常生活において感染を防止するために必要とする物品等の購入を支援する費用として、出勤日数に応じた支援金を支給しました。
<p>感 染 判 明 時 対 応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当財団の職員や学校の教職員、児童等が、陽性となった場合は行政、学校等と連携し、室内を徹底的に消毒しました。 ・わくわくプラザは、必要に応じて臨時休室の措置を取りました。
<p>ワ ク チ ン 接 種</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・館長会議等を通じて、ワクチン接種についての情報等を伝え、接種を推進しました。 ・接種を受けるときのサービスの取扱いについて、接種に必要な時間は職務免除、接種後に副反応が発生した場合は特別休暇とし、職員が接種しやすい環境を整えました。 ・神奈川県が実施する「福祉施設等従事者向けワクチン優先接種」の対象となった際には、全対象職員に、漏れなく周知を行いました。 ・10月末に実施した調査では、2回目の接種または1回目の予約が済んでいる職員・臨時職員の比率は、約93%でした。

(ウ) 防災対策

災害に備え、毎月、訓練を実施し、避難訓練や防災用品等の点検を行うとともに、災害伝言ダイヤルを活用した連絡手段を利用者に周知しました。

また、わくわくプラザでは、災害時等の対応について小学校と確認し、保護者に対して、連絡、引き取り方法等を周知するとともに、警報等が発令された際には、配信メールシステムを使用して、わくわくプラザの対応を周知しました。

(エ) その他の安全対策

①防犯対策

各こども文化センターの外側に設置された防犯カメラを活用するとともに、訪問者の目的や様子を把握するため、職員からあいさつを行うなど、不審者の侵入を抑制しました。

また、各施設が、学校や地域から不審者情報を得た場合は、利用者に注意喚起するとともに、本部を経由して、他施設に伝達し、事件・事故の予防に努めました。

②食物アレルギーへの対応

次の基本ルールを遵守し、子どもたちのアレルギー事故防止に取り組みました。

施設名	対応策
共 通	<ul style="list-style-type: none"> ① アレルギーのある児童が差別されないよう、食物アレルギーについての啓発活動に努める。 ② 児童がアナフィラキシーショックを起こした場合に備え、アドレナリン自己注射薬（エピペン）の投与等、応急処置ができるようにアレルギー研修の受講を職員に義務付ける。

こども文化センター	① 当財団が単独で主催する行事等で食物を提供する場合は、事前申込制とし、アレルギーの確認については、児童ではなく、保護者にしてくださいことを基本とする。 ② 共催行事等で、食物を提供する場合は、上記ルールの適用を保護者や関係者の理解を得ながら進める。
わくわくプラザ	① わくわくプラザ登録時にアレルギーのある子どもの保護者に「食物アレルギー調査票」の提出をお願いし、さらにおやつ申込時に、原材料名（成分表）が記載されたメニュー表をもとに、保護者にアレルギーチェックをお願いする。 ② 子どもにおやつを配布するときには、必ず複数の職員が「食物アレルギー調査票」に基づきチェックする。アレルギーとなる成分が入っているおやつについては、当該児童の保護者に手渡す。このとき、おやつが食べられなかった児童には、十分な説明をする。

カ 環境整備の推進

(ア) 基本方針

老朽化が進んでいるこども文化センターの中には建替え又は大規模修繕が必要なものがいくつかあります。今後、こうした施設の取扱いについて、市との協議を進めるため、施設整備状況確認調査を実施し、施設状況の把握に取り組みました。

(イ) 大規模修繕

30万円以上の施設・設備の修繕については、所有者である川崎市が行うこととなっていますが、安全・安心の確保や環境整備の観点から緊急度が高い場合については、市と協議のうえ、指定管理者が行っています。今年度は、当財団による大規模修繕に該当する補修・改修工事はありませんでした。

(ウ) 小規模修繕・軽工事

30万円未満の施設・設備・用具等の修繕については、指定管理者が行うこととなっています。施設や用具等の安全管理については、日ごろから点検を欠かさず、破損や故障を発見した場合は、迅速に対応しました。

「夏季のエアコン不具合への対応」「エアコン室内機に超親水性持続抗菌フィルターの設置」「照明設備」「換気扇」「水まわり」等電機系統を中心に、合計327箇所（総額19,904,013円）の補修・改修の工事を実施しました。また、簡易的な補修や書棚、遊具棚等の製作においては、昨年までと同様に、現場を熟知している元学校業務職の方々にご協力をいただき、迅速な対応を図りました。

キ 情報発信の取り組み強化

(ア) ホームページの活用

行事の開催・活動内容・団体への部屋の貸し出し状況等、施設に関する最新の情報を提供できるよう、定期的に掲載内容を更新しました。

(イ) かわさき子育てアプリの活用

行事の開催情報を定期的に更新し、子育て情報の周知向上を図りました。

※かわさき子育てアプリは、川崎市内の子育てに係る情報を配信するアプリケーション（ソフトウェア）です。

(ウ) 地域メディアの活用

かわさきFMで毎月第4月曜日に放送されている『まちかどからお届け』に出演しました。アナウンサーがこども文化センターを訪問し、館の行事予定や活動の様子などが、生放送で伝えられました。

ク 効果的な研修計画の策定・実施

青少年健全育成事業のサービス向上には、職員の資質向上が欠かせません。「新任館長・職員研修」等の勤務経験や職位に応じた各種研修を計画的に実施するとともに、グループ、館ごとに、地域性を重視した研修を実施しました。

また、川崎市や他の団体が主催で行う研修に積極的に参加し、職員のスキルアップや資格の取得を進めるとともに、職員が必要とする研修を効率・効果的に受講できるよう各館に職員ごとの研修受講名簿を備えました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、川崎市等が主催する研修等は、定員を縮小しての実施となりました。財団主催研修として、内部講師による「こども文化センター・わくわくプラザ事業について」を開催し、全職員が受講しました。



新任館長・職員研修

財団の主催する研修は、従来よりも広い会場やリモートで開催したり、時間を短縮して実施しました。

各研修と受講者数については【34頁：別表4】に記載。

ケ 教育実習・インターンシップ等への対応

例年、法人の社会貢献の一つとして、教育実習生、職業体験などを受け入れてきましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れを中止しました。

また、小・中学校の児童生徒がこども文化センターを訪問するまち探検（社会科見学）については、実施時間が短いことから受け入れ可能とし、32館に延べ2047人が来館しました。施設ごとの受入状況については【34頁：別表5】に記載。

コ いじめ等による子どもの変化の気づきについて

いじめや虐待、不登校等、子どもを取り巻く社会問題は多様化・複雑化が進んでおり、痛ましい事件も後を絶ちません。川崎市からも、虐待の疑いなどの気づきがあった場合は組織的な対応をし、複数の機関で見守る体制を整えることが求められています。

虐待が疑われる児童の報告フローや、早期発見のチェックリストを活用し、被虐待児の把握に努め、川崎市へ報告する体制を整えるとともに、各区要保護児童対策地域協議会に代表館長が出席し、情報共有に努めました。

また、コロナ禍でのいじめについては、新型コロナウイルスの検査で陽性になった児童や、濃厚接触者として特定された児童が不利益をこうむらないよう、細心の注意を払って対応しました。

(4) 地域子育て支援センター（連携型）事業

「地域子育て支援センター（連携型）」とは、川崎市が実施している地域子育て支援事業の一つで、比較的利用の少ない午前中のこども文化センターを活用し、子育て中の親子の交流の場や子育てに関する相談・援助の場として、また、地域の子育て情報の提供の場として設置されています。当財団は、この業務を今年度、5ヶ所で受託し、「ふぁみいゆ」という名称で週3日（9：30～12：30）開設しました。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策として手洗い、遊具や部屋の消毒、入れ替え制などによるソーシャルディスタンスの確保を実施して開室し、延べ13,990人の乳幼児親子が利用しました。

各施設の利用者数については【41頁：別表6】に記載。

【別表1】新型コロナウイルス感染症に伴う音楽室の利用制限

2020/4/11~5/31	臨時休館
6/1~10/12	グループ（複数人）での利用を禁止 個人（1名）または同居家族での利用は可能 消毒・換気をする時間を30分以上とれるよう利用時間を短縮
10/13~2021/1/7	対人距離を保てる定員を設定し、複数名での利用を可とする ※マスクを着用して歌唱、演奏。但し、管楽器等、マスクができない場合は、向かい合わせにならないようにする 5分程度の換気の時間を設ける
1/8~10/24	グループ（複数人）での利用を禁止 個人（1名）または同居家族での利用は可能 消毒・換気をする時間を30分以上とれるよう利用時間を短縮
10/25~2022/1/22	対人距離を保てる定員を設定し、複数名での利用を可とする ※マスクを着用して歌唱、演奏。但し、管楽器等、マスクができない場合は、向かい合わせにならないようにする 5分程度の換気の時間を設ける
1/23~3/21	グループ（複数人）での利用を禁止 個人（1名）または同居家族での利用は可能 消毒・換気をする時間を30分以上とれるよう利用時間を短縮
3/22~	対人距離を保てる定員を設定し、複数名での利用を可とする ※マスクを着用して歌唱、演奏。但し、管楽器等、マスクができない場合は、向かい合わせにならないようにする 5分程度の換気の時間を設ける

【別表2】音楽室の利用状況

施設名	利用者	2019年度	2020年度	2021年度	前年度比較(増減)
南河原	小学生	468人	1人	19人	18人
	中学生	89人	26人	101人	75人
	高校生	358人	151人	257人	106人
	一般	688人	91人	368人	277人
	合計	1,603人	269人	745人	476人
	団体数	811団体	262団体	679団体	417団体
小杉 2020年8月開設	小学生		35人	21人	▲14人
	中学生		40人	48人	8人
	高校生		78人	196人	118人
	一般		154人	266人	112人
	合計		307人	531人	224人
	団体数		190団体	412団体	222団体
宮崎	小学生	48人	18人	56人	38人
	中学生	26人	43人	41人	▲2人
	高校生	622人	46人	42人	▲4人
	一般	1,160人	894人	1,049人	155人
	合計	1,856人	1,001人	1,188人	187人
	団体数	1,254団体	977団体	1,130団体	153団体
白山	小学生	10人	12人	47人	35人
	中学生	34人	8人	28人	20人
	高校生	450人	287人	65人	▲222人
	一般	776人	335人	1,005人	670人

	合 計	1,270 人	642 人	1,145 人	503 人
	団 体 数	761 団体	520 団体	1044	524 人
計	小 学 生	526 人	66 人	143 人	77 人
	中 学 生	149 人	117 人	218 人	101 人
	高 校 生	1,430 人	562 人	560 人	▲2 人
	一 般	2,624 人	1,474 人	2,688 人	1214 人
	合 計	4,729 人	2,219 人	3,609 人	1,390 人
	団 体 数	2,826 団体	1,949 団体	3,265 団体	1,316 団体

【別表3】合同事業一覧

実施単位	開 催 日	内 容	参 加 数	開 催 場 所 (当 日)	
川 崎 区 1 ~ 3 G	9月25日	川崎区マンカラ大会 2021	事前	650 人	各こども文化センター ※当日リモート開催
			当日	76 人	
			合計	726 人	
幸 第 1 区 G	2月19日	リモート交流クイズ大会		286 人	各こども文化センター ※当日リモート開催
幸 第 2 区 G	1月29日	ハッピークイズーム～オンラインでつながろう～!		116 人	各こども文化センター ※当日リモート開催
中 原 区 第 1 G	6月～12月	KOSUMARU つながるチャレンジプロジェクト		1,847 人	グループ内6施設 ※各施設で毎月ゲームを持ち回りし、手紙で交流
中 原 区 第 1 G	4月・6月	Kosugi 3rd Avenue FoodMarket 共催事業		368 人	グループ内6施設
中 原 区 第 2 G	2月19日	ザ・チャレンジ～リモートフェスティバル		15 人	各こども文化センター ※当日リモート開催
中 原 区 第 3 G	8月6日	なかよしカップ～こんちゃれ王をめぐそう! 「つもったワー」	事前	568 人	グループ内9施設 ※当日リモート開催
			当日	45 人	
			合計	613 人	
中 原 区 第 3 G	12月27日	なかよしカップ～こんちゃれ王をめぐそう! 「ビー玉箸つかみ」	事前	685 人	グループ内9施設 ※当日リモート開催
			当日	45 人	
			合計	730 人	
中 原 区 第 4 G	10月8日	乳幼児と高校生のふれあい交流会		19 人	新城こども文化センター
中 原 区 第 4 G	12月18日	ZOOMで4Gチャレンジ!	事前	617 人	各こども文化センター ※当日リモート開催
			当日	45 人	
			合計	662 人	
高 津 区 第 1・2・3G	9月18日	「高津王～知力の壁を越えろ!」 (館別対抗小学生クイズ大会)		0 人	各こども文化センター リモート開催 ※99人の申込みがあったが、台風のため中止

実施単位	開催日	内 容	参 加 数		開催場所（当日）
高第1区G	12月18日	みんなであそぼう♪	38人		各こども文化センター ※当日リモート開催
高第1区G	2月26日	eスポーツ交流会	15人		上作延こども文化センター
高第2区G	10月11日	第8回わくリンピック～剣術王最強決定戦～	50人		各わくわくプラザ ※当日リモート開催
高第3区G	2月23日	アタック16～館対抗リモートクイズ大会	46人		各こども文化センター ※当日リモート開催
宮前2区G	3月26日	ら・ら・ら ふれんどゲームラリー	35人		土橋小学校 わくわくプラザ
多第1区G	1月6日	柘形・長尾 スポーツスタッキング☆チャンピオンシップ	事前	162人	柘形こども文化センター
			当日	24人	
			合計	186人	
多第2区G	11月6日	ユニバーサルスポーツ大会	20人		三田こども文化センター
多第2区G	1月7日	お楽しみ交流会	30人		錦ヶ丘こども文化センター
多第2区G	3月26日	生田大橋に絵を飾ろう	事前	51人	生田大橋 事前に絵を描き当日飾る
			当日	9人	
			合計	60人	
多第3区G	2月12日	地域ふれあいステージ	59人		各こども文化センター ※当日リモート開催
多摩区第1・2・3G	1月22日	ゴーゴーたまリンカップ！クイズ王決定戦2021	事前	239人	グループ内18施設 ※当日リモート開催
			当日	65人	
			合計	304人	
麻生1区G	1月22日	麻生パラリンピック	事前	336人	各こども文化センター ※当日リモート開催
			当日	21人	
			合計	357人	
麻生2区G	①7月21日	①3館合同オンラインこども会議 ②「おかにーからの挑戦状！」	事前	①146人	グループ内7施設 ※当日リモート開催
	②9月22日		当日	①10人 ②49人	
	合計		205人		
麻生3区G	1月29日	フレンズカップ2021	事前	78人	麻生こども文化センター
			当日	18人	
			合計	96人	

実施単位	開催日	内 容	参 加 数	開催場所（当日）	
グループ外	3月19日	高津区子ども会連合会共催事業 冬のお楽しみウォークラリーin たちばな (末長・子母口こ文)	46人	橘地区	
グループ外	3月5日	きらきら☆ON-LINE 発表会 (東百合丘・千代ヶ丘・王禅 寺・柿生こ文)	事前	90人	各こども文化センター ※当日リモート開催
			当日	45人	
			合計	135人	
グループ外	2月26日	「MINIBUN☆おんらいんステ ージ」 (殿町・浅田・新城・梶ヶ谷・ 中野島・三田こ文・千代ヶ丘わ く)	70人	各施設 ※当日リモート開催	

【別表4】研修実施状況

①財団主催研修（全市合同）

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開催場所
新任館長研修	課長・主幹・係長 社会保険労務士	館主 長査	13人	財団本部
新任館長・新任職員研修 (事務研修Ⅰ)	係長・本部職員	館職 長員	35人	前期：各こども文化 センター(ZOOM) 後期：財団本部
新任館長・新任職員研修 (事務研修Ⅱ)	係長・主任・本部職員	館職 長員	34人	財団本部
新任館長・新任職員研修 (普通救命講習Ⅲ)	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館主 主職 長査 任員	49人	中原消防署
新任館長・新任職員研修 (フォローアップⅣ研修)	主幹・エリアマネージャー・ 本部職員	館職 長員	35人	財団本部
主任本部体験研修 (7月・9月～2月開催)	係長・本部職員(職員係・事 業係・エリアマネージャー)	主主 査任	14人	財団本部
主任研修 (本部体験研修【全体説明】)	係長・本部職員	主主 査任	15人	財団本部
主任研修 (新任研修体験談発表)	エリアマネージャー	主任	4人	財団本部
主任研修 (館長会議参加)	係長・エリアマネージャー	主任	13人	総合自治会館 生涯学習プラザ
わくわくプラザ担当者研修 「事故対応研修」	主幹・エリアマネージャー・ 本部職員	主主 職 査任 員	59人	総合自治会館 財団本部
館長・主査研修 「こども文化センター・わくわく プラザ事業について」	課長補佐・事業係長 岩堀 誠	館主 主職 長査 任員	278人	各こども文化 センター

②財団主催研修（グループ単位）

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
川崎区 第1G ～3G	川 崎 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	29人	旭 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
川崎区 第1G ～3G	川 崎 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	29人	日 進 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
川崎区 第1G	防 災 研 修	川崎市総務企画局 危機管理室	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	26人	旭 町 こ ど も こ ど も セ ン タ ー
川崎区 第2G	衛生管理・応急処置 対 応 研 修	巡回相談員 佐藤 治恵	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	21人	大 師 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
川崎区 第3G	防 犯 ・ 不 審 者 対 応 研 修	川崎臨港警察署 生活安全課 巡査部長 西澤 雅彦氏 スクールサポーター 塚田 郷美氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	28人	田 島 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第1G ～3G	幸 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	25人	下 平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第2G	防 犯 研 修	幸警察署生活安全課防犯係 根村 輝明氏 佐藤 俊太氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	30人	南 加 瀬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第1G ～4G	中 原 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	29人	大 戸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第1G ～4G	中 原 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	30人	平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第1G	防 災 出 前 講 座	中原区役所 危機管理担当 斧山 和樹氏 渡會 勝行氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	24人	小 杉 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第1G	中原区合同事業 『KOSUMARU つな がるチャレンジプロ ジェクト』事前研修	中 原 区 第 1 G 各 施 設 担 当 職 員	館 長 員 職 員	10人	小 杉 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第2G	防 犯 研 修	中原警察署 防犯少年係 渡邊 可奈氏 浮田 裕輔氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	22人	住 吉 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第3G	防 犯 研 修	中原警察署 生活安全課 防犯係 警部補 佐藤 一弥氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	29人	平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第3G	衛 生 管 理 研 修	川崎市立犬蔵中学校 教頭 田中 理恵氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	30人	平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第3G	クレーム対応研修	川崎市立橋高等学校 教頭 大川 一幸氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	28人	玉 川 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
中原区 第4G	食物アレルギー 対応研修	宮内こども文化センター 臨時職員 長岡 徹	館 長 職 員 臨時職員	24人	宮内こども 文化センター
中原区 第4G	中学生・高校生の対応	川崎市教育委員会 中原区教育担当主事 古頭 一谷 氏	館 長 職 員 臨時職員	22人	大戸こども 文化センター
高津区 第1G ～3G	高 津 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	30人	二子こども 文化センター
高津区 第1G	中高生対応研修	西高津中学校 生徒指導担当教諭 田中 直幸 氏	館 長 職 員 臨時職員	14人	高津小学校 わくわくプラザ
高津区 第1G	防犯・不審者対応研修	神奈川県警高津警察署 生活安全課 富井 健剛 氏	職 員 臨 時 職	22人	上作延こども 文化センター
高津区 第2G	特別な配慮が必要な 児童への対応研修	東住吉小学校 校長 片山 純子 氏	館 長 職 員 臨時職員	34人	東高津こども 文化センター
高津区 第2G	防 災 研 修	幸消防署 南河原出張所 高比良 昇 氏	館 長 職 員 臨時職員	30人	東高津こども 文化センター
高津区 第3G	衛生管理・感染症 対策研修	子母口こども文化センター 臨時職員 山口 啓子	館 長 職 員 臨時職員	27人	梶ヶ谷こども 文化センター
高津区 第3G	接 遇 研 修	子母口こども文化センター 館長 澤井 大輔	館 長 職 員 臨時職員	29人	子母口こども 文化センター
高津区 第3G	他 施 設 体 験	第3G管轄内 わくわくプラザリーダー	館 長 職 員 臨時職員	21人	第3G管轄内 わくわくプラザ
宮前区 第1G ～2G	宮 前 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	28人	宮崎こども 文化センター
宮前区 第1G ～2G	クレーム対応研修	川崎区エリアマネージャー 川北 友	館 長 職 員	18人	宮前平こども 文化センター
宮前区 第1G	中学生対応研修	川崎市宮前平中学校 教諭 國田健太郎 氏	館 長 職 員 臨時職員	17人	宮崎こども 文化センター
宮前区 第2G	防 犯 研 修	宮前警察署生活安全課 吉田 仁司 氏	館 長 職 員 臨 時 職	30人	平 こ ど も 文化センター
多摩区 第1G ～2G	多 摩 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	30人	中野島こども 文化センター
多摩区 第1G ～2G	多 摩 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	22人	長尾こども 文化センター

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
多摩区 第1G	コロナ禍での 施設運営研修	枅形こども文化センター 館長 小林 謙二 長尾こども文化センター 館長 森山 博美	館 長 職 員 臨時職員	7人	長尾こども 文化センター
多摩区 第3G	防 災 研 修	多摩区役所 危機管理担当 地域防災 鈴木 貴大氏	館 長 職 員 臨時職員	69人	多摩区第3G こども文化 センター (ZOOM)
多摩区 第3G	防 犯 研 修	菅こども文化センター 館長 山田 和秀	館 長 職 員 臨時職員	36人	菅 こ ど も 文化センター
麻生区 第1G ～3G	麻 生 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	23人	麻生こども 文化センター
麻生区 第1G	オンライン業務研修	百合丘こども文化センター 館長 鈴木 武	館 長 職 員	15人	王禅寺・白山 こども文化 センター (ZOOM)
麻生区 第1G	中高生対応研修	西生田中学校 校長 山川 俊英氏	館 長 職 員 臨時職員	15人	百合丘こども 文化センター
麻生区 第1G	防犯・不審者対応研修	麻生警察署生活安全課 防犯少年係 土田 信也氏 黒野 邦子氏 吉田 理恵氏	館 長 職 員 臨時職員	19人	千代ヶ丘こども 文化センター
麻生区 第2G	児 童 対 応 研 修	柿生こども文化センター 館長 和田 淳二	館 長 職 員 臨時職員	28人	柿生こども 文化センター
麻生区 第2G	けん玉指導研修	公益社団法人日本けん玉協会 神奈川支部 橋本 雅之氏 柳川 光子氏	館 長 職 員 臨時職員	28人	虹ヶ丘こども 文化センター
麻生区 第3G	クレーム対応研修	白山こども文化センター 館長 岩田昭彦	館 長 職 員 臨時職員	19人	白山こども 文化センター

③川崎市主催研修

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
第1回 作品作りによる表現活動	元川崎市小学校長 三村 修一氏	館 長 職 員 臨時職員	63人	生涯学習プラザ
第2回 児童健全育成論	エイト保育指針研究所 小川 信治氏	館 長 職 員 臨時職員	61人	生涯学習プラザ
第3回 中高生への関わり方	川崎市総合教育センター 教育相談センター 指導主事 山田 礼子氏	館 長 職 員 臨時職員	90人	生涯学習プラザ
第4回 特別な配慮が必要な 児童への関わり方	川崎市総合教育センター 特別支援教育センター 指導主事 中村 めぐみ氏	館 長 職 員 臨時職員	89人	生涯学習プラザ

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
第5回 学校や地域との連携	共育ひろば 主宰 牧岡 英夫 氏	館 長 職 員 臨時職員	88人	生涯学習プラザ
第6回 特別な配慮が必要な児童への 関 わ り 方	発達障害を手がかりとしたユニ バーサルデザインコンサルタント 橋口 亜希子 氏	館 長 職 員 臨時職員	105人	生涯学習プラザ
第7回 保護者・家庭との連携	Office with a smile 上級心理カウンセラー 遠藤 久恵 氏	館 長 職 員 臨時職員	84人	生涯学習プラザ
第8回 コロナ禍における児童理解	NPO 法人 フリースペースたまりば 理事長 西野 博之 氏	館 長 職 員 臨時職員	130人	生涯学習プラザ
第9回 安全管理・事故防止	川崎市中原区役所危機管理担当 地域防災 斧山 和樹 氏	館 長 職 員 臨時職員	82人	生涯学習プラザ
第10回 子ども の 権 利	川崎市教育委員会事務局 教育政策室 担当課長 板橋 美由紀 氏	館 長 職 員 臨時職員	130人	生涯学習プラザ
第11回 児 童 虐 待	川崎市こども未来局 児童家庭支援・虐待対策室 課長補佐 梅澤 直美 氏 塩村 光正 氏	館 長 職 員 臨時職員	82人	生涯学習プラザ
第12回 外国につながる子どもの支援	川崎市教育委員会事務局 教育政策室 指導主事 福岡 弘行 氏	館 長 職 員 臨時職員	130人	生涯学習プラザ
第13回 L G B T Q	LGBT 連合会 共同代表 原 ミナ汰 氏 なないろほたる 松尾 ゆみ氏	館 長 職 員 臨時職員	123人	生涯学習プラザ
第14回 安全管理・事故防止	川崎市教育委員会事務局 学校教育部 川崎区・教育担当 指導主事 大井 正人 氏	館 長 職 員 臨時職員	79人	生涯学習プラザ
第15回 不登校児対応	NPO 法人 フリースペースたまりば 理事長 西野 博之 氏	館 長 職 員 臨時職員	80人	生涯学習プラザ
第16回 応 急 手 当 研 修	川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	41人	生涯学習プラザ
第17回 アレルギー対応 (エピペン実習含む)	川崎市教育委員会事務局 学校教育部 健康教育課 指導主事 築部 めぐみ 氏	館 長 職 員 臨時職員	40人	生涯学習プラザ
第18回 野 外 活 動 (野外での火気取扱い)	子ども夢パーク 職員 本間 氏・川嶋 氏	館 長 職 員 臨時職員	79人	子ども夢パーク

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
第19回 野 外 活 動 (室 外 で の 遊 び)	子ども夢パーク 職員 齋藤氏・矢野氏・泉氏	館 長 職 員 臨時職員	98人	子ども夢パーク
第20回 遊 び や 体 験 の 支 援	子ども夢パーク 職員 古森氏・金山氏	館 長 職 員 臨時職員	35人	子ども夢パーク

④資格取得研修

研 修 名	講 師	対 象	取得者数	開 催 場 所
甲種防火管理者講習会	川崎市消防防災指導公社	館 長 主 査	8人	かわさき保育会館
防 災 管 理 講 習 会	一般財団法人 日本防災・防災協会	館 長	1人	おだわら市民交流 セ ン タ ー
児童厚生員等基礎研修会 (児 童 厚 生 2 級)	一般財団法人 児童健全育成推進財団	職 員	23人	前期：オンライン受講 各こども文化センター 後期：対面受講 Lstay&grow 南砂町
中堅児童厚生員等研修会 (児 童 厚 生 1 級)	一般財団法人 児童健全育成推進財団	館 長 主 査	9人	トーセイホテル& セ ミ ナ ー 幕 張
神奈川県放課後児童支援 員 認 定 資 格 (6・9・1・2月開催)	(株)東京リーガルマインド	館 長 職 員 臨時職員	42人	エポックなかはら 横浜市技能文化会館
衛生推進者養成講習会	一般社団法人 安全衛生マネジメント協会	館 長 職 員	51人	生涯学習プラザ 総 合 自 治 会 館

【別表5】教育実習等の受入状況

小学校・中学校生のまち探検（社会科見学）の受入状況（半期）

学 校 名	人 数	受 入 場 所	実 施 日 数	
川崎区	旭 町 小 学 校	60人	旭 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	川 崎 小 学 校	29人	日 進 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	田 島 小 学 校	65人	渡 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	殿 町 小 学 校	12人	殿 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	渡 田 小 学 校	180人	田 島 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	5日
	浅 田 小 学 校	52人	浅 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	小 田 小 学 校	102人	浅 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
幸区	南 河 原 小 学 校	10人	南 河 原 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	戸 手 小 学 校	3人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	小 倉 小 学 校	32人	小 倉 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	4日

中原区	小杉小学校	54人	小杉こども文化センター	3日
	今井小学校	9人	小杉こども文化センター	2日
	上丸子小学校	16人	新丸子こども文化センター	1日
	東住吉小学校	16人	住吉こども文化センター	2日
	下小田中小学校	12人	井田こども文化センター	1日
	平間小学校	182人	平間こども文化センター	2日
	玉川小学校	11人	玉川こども文化センター	1日
	苜宿小学校	12人	西加瀬こども文化センター	1日
	大谷戸小学校	23人	大戸こども文化センター	1日
高津区	上作延小学校	19人	上作延こども文化センター	4日
	宮崎中学校	6人	上作延こども文化センター	1日
	久本小学校	166人	二子こども文化センター	2日
	末長小学校	9人	末長こども文化センター	1日
	子母口小学校	198人	子母口こども文化センター	1日
	梶ヶ谷小学校	8人	梶ヶ谷こども文化センター	1日
宮前区	宮崎中学校	5人	宮崎こども文化センター	1日
	白幡台小学校	31人	白幡台こども文化センター	1日
多摩区	東生田小学校	105人	枳形こども文化センター	1日
	生田小学校	94人	錦ヶ丘こども文化センター	2日
	三田小学校	167人	三田こども文化センター	5日
	中野島小学校	150人	中野島こども文化センター	2日
	西菅小学校	31人	南菅こども文化センター	1日
麻生区	千代ヶ丘小学校	7人	千代ヶ丘こども文化センター	1日
	虹ヶ丘小学校	16人	虹ヶ丘こども文化センター	1日
	麻生小学校	155人	麻生こども文化センター	2日

【別表6】地域子育て支援センター（連携型）事業 利用状況

区	施設名	種別	2019年度 (8施設)	2020年度 (6施設)	2021年度 (5施設)	前年度比較 (増減)
川崎区	ふあみいゆ 殿町	児童	1,437人	919人	1,335人	416人
		成人	1,170人	796人	1,094人	298人
		合計人数	2,607人	1,715人	2,429人	714人
	ふあみいゆ 田島	児童	1,588人	664人	1,358人	694人
		成人	1,393人	650人	1,280人	630人
		合計人数	2,981人	1,314人	2,638人	1,324人
	ふあみいゆ 浅田	児童	1,527人	862人	1,377人	515人
		成人	1,266人	758人	1,098人	340人
		合計人数	2,793人	1,620人	2,475人	855人
幸区	ふあみいゆ 南河原	児童	2,084人	1,180人	1,422人	242人
		成人	1,967人	1,141人	1,354人	213人
		合計人数	4,051人	2,321人	2,776人	455人
	ふあみいゆ 小倉	児童	2,616人			
		成人	2,350人			
		合計人数	4,966人			
中原区	ふあみいゆ 平間	児童	1,929人	1,230人	1,864人	634人
		成人	1,792人	1,063人	1,808人	745人
		合計人数	3,721人	2,293人	3,672人	1,379人
麻生区	ふあみいゆ 千代ヶ丘	児童	1,839人			
		成人	1,637人			
		合計人数	3,476人			
	ふあみいゆ 柿生	児童	1,314人	1,072人		
		成人	1,292人	1,069人		
		合計人数	2,606人	2,141人		
合 計	児童	14,334人	5,927人	7,356人	1,429人	
	成人	12,867人	5,477人	6,634人	1,157人	
	合計人数	27,201人	11,404人	13,990人	2,586人	

※ 2021年度より「ふあみいゆ柿生」が他団体の運営となり、5館受託になりました。

※ 2020年度の利用状況から「ふあみいゆ柿生」分を差し引いて今年度と比較した場合、合計人数は4,727人増となります。

※ 2019年度3月～2021年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、臨時休所、運営内容の制限などを設けて運営しました。

3 法人の運営

2010年に公益財団法人としての認定を受け、その後、効果的な公益目的事業の実施と法人としての役割・機能が発揮できる組織づくりを本部と現場が一体となって取り組みを進めてきました。また、当財団が実施している事業や財務に関して広く市民へ説明する責務を自覚して法人の運営を行いました。

なお、同一労働同一賃金が立法化された中で、本法人においても、これを遵守し、実現するため、固定報酬の廃止並びに昇給を含めた給料表の作成、期末勤勉手当及び住宅手当の支給等による嘱託職員の処遇改善について、実施が可能な総務課及び市民活動推進課から見直しを図りました。なお、次年度においては、予算の目途がついたことから、青少年事業課でも実施する予定です。

また、2020年度から産業医を設置したところですが、コロナ禍における各職場巡視による指導及び健康相談などを実施することで施設利用者の安全安心及び職員の健康管理等の充実を図ることができました。

ア 業務・組織の改革

法人全体の業務改善に取り組むとともに、事業計画の進捗管理を着実にを行い、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じて、経営基盤の強化を図り、組織の総合力向上に努めました。

組織としての一体感の醸成や職員のスキルアップを図るため、各種研修等を実施するとともに、職員の意識改革の促進と人材育成にも取り組みました。

また、固定資産管理システムや、法定調書管理システムのクラウド化を進め、業務の効率化を図りました。さらに、有事の際に、給与処理などが滞らないように、オンラインシステムの整備を進め、試験的に在宅勤務を実施しました。

イ 財務改善

経理・会計処理では、公益法人会計基準に準拠した会計を的確に行うため、2013年9月1日からPCA公益法人会計ソフトを導入して実施していますが、2021年度に会計ソフトのバージョンアップを行い、固定資産ソフト、法定調書ソフトも同じ系列のシステムに組み込むことで、経費削減を図ったほか、これまで外部委託を行っていた、登記変更作業なども職員が担当することで、経費削減を図りました。

また、各課との連携を図り、円滑な事務処理を行いました。

適正な会計処理の継続的な実施に向け、各課に周知徹底を図りながら経理事務の改善を推進するとともに、安定した公益財団法人の経営を維持するために適切な財務管理を実施しています。

ウ その他

2020年度の事業報告書等の提出については、関係書類等を作成し監事監査を経て、理事会及び評議員会（定時評議員会）での承認を受け、6月25日に行政庁（神奈川県）へ報告しました。関係書類等については事務所に備え置くとともに、貸借対照表を公衆の見やすい場所に掲示しました。

2022年度の事業計画書及び収支予算等の提出については、第3回理事会で承認を受け、3月25日に行政庁に報告しました。